

令和6(2024)年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

		国語科 2024年度重点目標																	
<div>重要度</div> <div>[4] 大変に重要</div> <div>[3] やや重要</div> <div>[2] あまり重要でない</div> <div>[1] 重要でない</div> <div>達成度</div> <div>[4] 75～100%</div> <div>(ほぼ達成した)</div> <div>[3] 50～74%</div> <div>(まあまあ達成した)</div> <div>[2] 25～49%</div> <div>(あまり達成できなかった)</div> <div>[1] 0～24%</div> <div>(ほとんど達成できていない)</div>	項目1	目標	① 各学年または到達段階に応じた国語の力を生徒に身につけさせる。																
		達成方法	・漢字テストや単語テスト、文法テストなどの小テストを定期的実践する。また、読書や副教材、プリント等を用いた課題（宿題）を理解度に応じて提供し、活用することで、家庭学習においても自発的に国語の学習に取り組めるようにする。																
			・中学段階では「総合」の時間や、読書指導、古典作品（百人一首）の暗唱などの活動を通じて文章や言葉に常に関心を持たせていく。高校段階では、小論文指導を通して文章の表現力を身につける。																
			・中学段階から国語に対する関心興味を持ち、論理的に物事を考え、理解するための言葉や文章を身につけ、基礎力の充実を図る。高校段階では、現代文を通じて現代のさまざまな問題に対して多角的な見方や考え方があることを知り、広い視野のもと、物事を考えられるようにするとともに、自分の考えを筋道立てて表現できるようにする。																
			・古典を通じて歴史や文化の特色を理解するとともに、文法や句法の分析を通じて読解を深め、問題を解決できる力を養成する。																
	項目2	目標	② 生徒が積極的に国語の学習に取り組める授業を実践する。																
		達成方法	・授業では、音読の機会、発問の機会、発表や発信の機会をできるだけ多く増やし、受け身ではなく主体的に授業に参加させていく。（特に、個人・グループ・クラスでの学習内容の振り返り作業を中心とした、教訓帰納に基づく教科指導に力を入れる）																
	項目3	目標	・妻中サクセス（学習の身体化・高速化）と、「スタディサプリ」などの自習教材アプリを活用し、能動的な学習を習慣化させる。																
		達成方法	・特に中学では学年内の他教科と連携して、課題量を生徒の負担になりすぎないように勘案し、生徒が取り組みやすい環境をつくる。																
	項目4	目標	③ ICTの活用および音声教材、映像教材を取り入れた五感を刺激する授業を実践する。																
		達成方法	・教員間で密に連携しながら授業研究を深めるとともに、授業見学なども積極的に行う。また、電子黒板・manaba・LOILOノート・スタディサプリ等のICTの積極的な活用を試みながら、生徒同士の意見や発言のアウトプットを促す。																
			項目1		項目2		項目3		項目4										
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度										
部署コード/平均		3.90	3.20	3.90	3.40	3.60	2.60	3.50	3.40										
1		4	3	4	3	4	3	4	4										
2		4	4	4	4	4	4	4	3										
3		4	3	3	4	4	3	3	4										
4		4	2	4	2	3	2	3	3										
5		4	3	4	3	3	4	3	4										
6		4	4	4	4	4	3	4	4										
7		3	4	4	4	3	2	3	3										
8		4	3	4	3	3	2	3	2										
9		4	3	4	3	4	1	4	3										
10		4	3	4	4	4	2	4	4										
<取組状況・次年度への課題など>																			
・項目1、項目2、項目4に関しては、標準評価の「3」以上であるので、次年度も継続して指導の指針としていきたい。特に項目2の「教訓帰納に基づく教科指導」については、各学年その学習内容に応じた振り返り作業を個人・グループ・クラス単位で行なった。また、振り返り作業のときにはプリントだけでなく、ロイロノートの活用も多く見られた。そして、項目4に関しては昨年同様に、生徒の学力向上に向けて各教員が従来の指導法（「書くこと」「読むこと」に重点を置いた指導、板書による指導等）とICTとの効果的な併用の実践を試みた。教科の特性上すべてをICT教育に頼ることはできないので、今後も学年に応じた適切な指導方法を試行錯誤していきたい。																			
・項目3に関しては、学年に応じた課題量の調節などにもっと工夫が必要であると感じた。特に中学生においては、他教科との連携や「スタサプ」などの自学自習教材の部分的な活用などを上手にしていきながら、生徒により能動的な学習を促す機会を作っていきたい。																			

<div>重要度</div> <div>[4] 大変に重要 [3] やや重要 [2] あまり重要でない [1] 重要でない</div> <div>達成度</div> <div>[4] 75～100% (ほぼ達成した) [3] 50～74% (まあまあ達成した) [2] 25～49% (あまり達成できなかった) [1] 0～24% (ほとんど達成できていない)</div>		地歴公民科 2024年度重点目標																		
		項目1	目標	探究型授業の実践とそのノウハウの蓄積・共有																
			達成方法	探究型授業を通じて身に着ける力を各科目で検討・設定し、教科内で共有する。																
				学年・科目を問わず参加型授業を実施し、生徒が自主的に取り組むシステムを構築する。																
				教科内で実施した参加型授業の取り組みやその成果について共有し、教科全体での向上を図る。																
		項目2	目標	新カリキュラム、新科目における実践・研究																
			達成方法	新カリキュラムへの移行が完了するため、新たなカリキュラムにおける6年間の取り組みを検討する。																
				新たな科目による入試問題の対策、学習方法を検討し、情報収集に務める。																
		項目3	目標	教訓帰納の実施																
			達成方法	授業における教訓帰納を随時導入する。																
学年・科目の特性に応じた取り組みについては教科内で共有をする。																				
		項目1		項目2		項目3														
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度													
部署コード/平均		3.91	2.73	3.73	2.45	3.73	2.55													
1		4	3	4	2	4	2													
2		4	4	4	3	4	3													
3		4	2	4	3	4	3													
4		4	2	3	2	3	2													
5		4	3	4	3	4	3													
6		3	2	3	3	4	2													
7		4	3	4	2	4	3													
8		4	3	4	3	3	2													
9		4	3	3	2	3	3													
10		4	3	4	2	4	2													
11		4	2	4	2	4	3													
<div>&lt;取組状況・次年度への課題など&gt;</div> <div>探究授業は、個々での取り組みは行われている。しかし、教科内での共有には至っていないので、来年度は取り組みに加えて共有を重視することを意識する。特に6年間を通じて、どのような力をつけることをゴールとするのか、各科目においてそのゴールのどの部分を達成するのか、など長期スパンでの見通しを持ちたい。</div> <div>新カリキュラムについては現在流動的な状況であるので、あと数年は対応するまでに時間を要すると思われる。特に高校2年生以降の選択科目においては、そのあり方や進め方を教科の枠を超えて検討していきたい。</div> <div>教訓帰納については、コアネットより新たな情報や提案をもらっている段階であるので、発展的に取り組みを継続していき、探究授業への取り組みとも相関を目指す。</div>																				

		数学科 2024年度重点目標																	
<div> <div>重要性度</div> <div>           [4] 大変に重要            [3] やや重要            [2] あまり重要でない            [1] 重要でない         </div> </div> <div> <div>達成度</div> <div>           [4] 75～100%            (ほぼ達成した)            [3] 50～74%            (まあまあ達成した)            [2] 25～49%            (あまり達成できなかった)            [1] 0～24%            (ほとんど達成できていない)         </div> </div>	項目1	目標	授業の質の向上																
		達成方法	①反転授業により演習量を増やすと共に、生徒の主体的かつ協働的な活動を促す。 ②研究授業による振り返りを行う。また積極的な授業見学を行い、意見交換をし、科としてのスキルアップを図る。																
	項目2	目標	I C Tの活用の推進																
		達成方法	①タブレットを使った授業の実践。スタディサプリを用いて予習など自学自習を促したり、自分の作った解答を交換し合い、自らの学習姿勢を整える。																
			②ロイロノートやZoomを活用し、自宅からの質問にも対応し、自宅学習のサポートを行う。																
	項目3	達成方法	③模試や、大学入試問題の解説をビデオに撮り、インターネット上でいつでも自学自習できる環境を整える。																
			基礎学力の定着および応用力・探究力の育成																
			①MMTや小テスト等のこまめな実施。合格点を設け、合格するまで丁寧に指導していく。																
			②外部模試を検証し、弱点を随時把握し、講習等を用いて補強していく。																
			③参考書や模試や定期考査などを講習に活用し、「テスト→振り返り→類題」などさまざまな方法で応用力育成を目指す。																
	項目4	達成方法	④自らテーマを決め、答えのない課題に対して周囲を納得へと導く「納得解」を探究しアウトプットできる力を養う。																
			⑤振り返りシート等を用いて自身の定着度を見える化し、課題を自分で認識できるよう働きかける。																
			目標																
			変わりゆく大学入試への適切な対応																
	項目4	達成方法	①大学の入試問題を解き、教科で研究し情報共有する。また、その入試問題の特徴をシートにまとめ、生徒へ情報還元する。																
			②全教員で各定期テストを研究し、変わりゆく大学入試に適しているかどうかなど、質の向上を行う。																
			③研修などに参加し、教科で情報共有する。																
		項目1		項目2		項目3		項目4											
		重要性度	達成度	重要性度	達成度	重要性度	達成度	重要性度	達成度										
	部署コード/平均	3.82	2.91	3.55	3.36	3.82	3.27	3.82	3.27										
	1	4	3	4	3	3	3	3	3										
	2	4	3	3	3	3	2	4	3										
	3	4	2	3	4	4	3	4	3										
	4	4	2	4	3	4	4	4	3										
	5	3	3	3	3	4	2	3	3										
	6	4	3	4	3	4	3	4	3										
	7	3	3	3	4	4	4	4	3										
	8	4	4	4	4	4	4	4	4										
	9	4	3	4	4	4	4	4	4										
	10	4	3	3	3	4	4	4	4										
	11	4	3	4	3	4	3	4	3										
<div>             &lt;取組状況・次年度への課題など&gt;              各項目ともに重要性度は高く、数学科として目指すべき方向性を共有できている。引き続き、重点目標として掲げ取り組む必要がある。              「反転授業」を始めとした取り組みも、長年の継続により定着してきているが、結果の面ではまだ満足できるものではない。              特に、中学生においては下位層が減ったのと同時に上位層も減少している傾向があり、取り組みの一部見直しを検討する必要がある。              「予習をすること」が”目的”ではなく”手段”として根付くよう、教科として授業中のアプローチを含め引き続き改善していく。           </div> <div>             また、情報処理能力や読解力が求められる大学入試にも対応できるよう、教科書+αの内容にも触れていきたい。           </div>																			

		理科 2024年度重点目標																
重要度 [4] 大変に重要 [3] やや重要 [2] あまり重要でない [1] 重要でない  達成度 [4] 75～100% (ほぼ達成した) [3] 50～74% (まあまあ達成した) [2] 25～49% (あまり達成できなかった) [1] 0～24% (ほとんど達成できていない)	項目1	目標	①生徒が理科に興味関心を抱き、主体的に学習するような授業を計画し、基礎学力の定着および成績向上をはかる。															
			②高校の生徒が大学受験に対応できるような環境を整える。															
		達成方法	①授業中は、生徒が主体的に学習活動を行えるように、実験や実習を多く取り入れる。															
			実験や観察が困難な単元では、講義型の授業だけにならないように、書く・考える・話し合うなどの活動を多く取り入れる。															
			授業内に小テストや振り返りを行うことにより、生徒自身が知識の定着を図れるような教訓帰納を意識した授業展開をする。															
			②知識の定着とともに、問題演習を行うことにより、より発展的な知識理解ができるような授業展開および考査を実施する。															
	科目ごとにロイロで質問箱を作成し、全教員が高3生徒の質問に対応できるようにする。																	
	項目2	目標	中1 自由研究、高2 研究論文など各学年で探究的な活動を計画・実践する。外部プログラムへの参加も推進する。															
		達成方法	①学年や科目の実態に合わせ、自ら課題を探究する活動を取り入れ、活動内容を教員間で共有する。															
	②高2の研究論文は、教科の全教員で添削を行い、大学での学びにつながる探究心を刺激する。																	
項目3	目標	学年・クラス・コースごとに目的をもった教科指導を行う。																
		①高校3年生は、受験生指導として幅広い成績層の中で志望校別・レベル別に対応する。																
		②高校2年生は、3年生から受験演習にスムーズに入れるように基礎学力の定着を図り、演習問題への着手を目指す。																
		③高校1年生以下は、興味・関心を引き出すため、実験や視覚に訴える授業展開を意識する。また、基礎基本の定着を、問題演習や小テストを通して徹底する。																
④理科としての学力だけではなく、環境問題や最新技術なども視野に入れながら授業展開を行う。																		
		項目1		項目2		項目3												
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度											
部署コード/平均		3.86	3.29	3.43	2.86	3.86	3.57											
1		4	3	4	3	4	3											
2		4	4	4	4	4	4											
3		4	4	4	3	4	3											
4		4	4	3	2	3	4											
5		3	3	3	2	4	3											
6		4	3	3	4	4	4											
7		4	2	3	2	4	4											
<p>&lt;取組状況・次年度への課題など&gt;</p> <p>項目1：実験については例年通り中学生を中心にできていた。高校生はどの科目でもできる限り実験を増やすなどの工夫が見られた。したがって、演示実験を含めると学年によって興味・関心を引き出す工夫をしていたと言える。また、昨年度議題に上がった教訓帰納を意識した授業形態も常態化し、生徒自身が知識の定着を図れるような授業展開もされていた。次年度はより発展的な知識理解ができるような授業展開を考えつつ、この流れを継続させたい。</p> <p>大学受験への対応については、各教員が生徒からの質問に積極的に対応し、長期休業中の講習を充実させるなど、対生徒への学習環境は概ね充実していたと言える。課題としては、教員それぞれが自己研鑽に励み、多様化する大学受験に対応する力を磨くことである。</p> <p>項目2：高2の研究論文については、今年度は高2学年の教員で対応した。年度当初に完成のレベル(ゴール)や課題の進め方について、テキストを用いて確認したが、年間を通して課題に取り組んだ生徒は少なかったように感じた。この点について、次年度も引き続き、「年間を通して計画通り進める」という点を改善していく必要がある。中1の夏休み自由研究発表はポスターセッションという形で実施され、生徒各々が発表を意識して課題に取り組めたようである。指導においても、「発表を意識して資料を作成する指導」が徹底され、次年度も継続できればと思う。</p> <p>自ら課題を探究する活動については、昨年度「teamsなどを利用し、紹介し合ってもよいかもしれない」としたが、あまり行われなかった。また、外部プログラムにも昨年度ほど参加できなかった。したがって、教員の達成度がやや低くなっている。ただ、7月に実施した東京電機大との連携プログラムは多くの生徒を集め、充実したプログラムとなった。この外部プログラム推進については、次年度しっかり強化していきたい。</p> <p>項目3：この項目についてはそれぞれの学年・科目で工夫はできているが、相変わらず教員個々の力量任せな側面が非常に強い。項目2でも同じようなことを述べたが、teamsなどで授業展開などを共有する(例えば、実験の授業を見学し合う)など、新たな工夫や双方の意見を取り入れることで、教員の授業力を上げていきたい。</p>																		

保健体育科 2024年度重点目標																	
<div>重要度</div> <div> [4] 大変に重要  [3] やや重要  [2] あまり重要でない  [1] 重要でない </div> <div>達成度</div> <div> [4] 75～100%  (ほぼ達成した)  [3] 50～74%  (まあまあ達成した)  [2] 25～49%  (あまり達成できなかった)  [1] 0～24%  (ほとんど達成できていない) </div>	項目1	目標	授業に参加する姿勢を、積極的に取り組めるようにする。														
		達成方法	本時の目標、課題を設定して自ら学び、探究する取り組みをする。														
	項目2	目標	到達度を可視化する														
		達成方法	振り返りシートを活用して、到達度を確認しながら授業に取り組んで行く。														
	項目3	目標	授業の魅力度を上げる														
		達成方法	「元気に明るく爽やかに」規律を守りながら取り組める環境を作る。														
		項目1		項目2		項目3											
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度										
部署コード/平均		3.80	3.20	3.60	2.60	4.00	3.60										
1		4	3	4	3	4	4										
2		4	3	4	2	4	3										
3		4	4	3	4	4	4										
4		3	3	4	2	4	4										
5		4	3	3	2	4	3										
6																	
7																	
8																	
9																	

<取組状況・次年度への課題など>  
項目①に関しては、マット運動など課題がはっきりしているので、目標を持って自発的に取り組むことができた。ダンスでは、教え合い、協力して探究することができた。球技では、時間毎の課題設定が難しい部分があり、十分な指導ができなかった。  
項目②に関しては、競技によってばらつきがあった。マット運動や、サッカーなどは到達度を把握しやすいように工夫できたが、バスケットボール、ハンドボール、バレーボールなどは、可視化できるプリントなど改善する必要がある。  
項目③に関しては、元気で積極的に、明るく楽しく、規律を守り爽やかに授業に参加した生徒が多かった。  
次年度への課題としては「ワークシートを作成して、課題を明確にしての取り組み」「危機管理・けが、熱中症対策」「高校保健、探究活動の改善」の3点を考えています。

芸術科 2024年度重点目標																		
<div>重要度</div> <div> [4] 大変に重要  [3] やや重要  [2] あまり重要でない  [1] 重要でない </div> <div>達成度</div> <div> [4] 75～100%  (ほぼ達成した)  [3] 50～74%  (まあまあ達成した)  [2] 25～49%  (あまり達成できなかった)  [1] 0～24%  (ほとんど達成できていない) </div>	項目1	目標	①個々の状況に合わせた教育を心掛け、生活習慣の基礎を身に付け、生徒本人の主体的な取り組みを促す。															
			②芸術活動、技能の探究や研究にタブレットなどのICTを使い、より深くわかりやすい授業を展開していく。															
		達成方法	①生徒間・生徒教員間の自由な意見交換を行い、芸術の主体的な構築に努め、より高いレベルの演奏・作品を目指す。															
			②授業の内容に応じてタブレットなどのICTを使って、課題の理解を深めさせる。															
			③教訓帰納を生かし、よりよいものを作り上げようとする探究心を高める。															
	項目2	目標	芸術活動を通じて、目標に向かって諦めずに努力する姿勢を養い、達成感を通して豊かな心を養う。															
		達成方法	①挨拶、姿勢、授業態度に留意し、芸術に取り組む基本的な心構えを習得させる。															
			②音楽・美術・書道それぞれの科目の中で課題に真摯に取り組み、目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢を養う。															
			③高い目標を設定し、目標を達成するために仲間と協力し、その過程で生じる様々な問題を自ら解決していく力を育てる。															
	項目3	目標	芸術の持つ力について探究し、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる。															
		達成方法	芸術が身近にある生活が自分と周囲の人々の心を豊かにすると共に、生きる力を与えることができることを実例を集めて考えさせる。															
		項目1		項目2		項目3												
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度											
部署コード/平均		4.00	3.67	4.00	4.00	3.67	3.33											
1		4	4	4	4	3	3											
2		4	4	4	4	4	4											
3		4	3	4	4	4	3											
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
<取組状況・次年度への課題など> 芸術科は科目により傾向があるため、重要度、達成度に違いがある。 項目1に関しては、授業中の振り返りの精度、アクティブラーニング、ICTの利用頻度も上がり、次回授業への課題や理解が深まった。 項目2に関しては、「目標に向かって諦めずに努力し、達成感を味わい」、「豊かな心」を養い、培う力は、年度当初に掲げた目標について継続して取り組み、ほぼ予定通り授業を実施できていた。 項目3に関しては、科目、学年、学期によって授業への組み込みにばらつきはあるが、芸術を通して生きる力を付けていく大切さ、意義を、授業の中で分かりやすく取り組んでいく。																		

外国語科 2024年度重点目標		
<div> <div>重要性</div> <div>           [4] 大変に重要            [3] やや重要            [2] あまり重要でない            [1] 重要でない         </div> </div> <div> <div>達成度</div> <div>           [4] 75～100%            (ほぼ達成した)            [3] 50～74%            (まあまあ達成した)            [2] 25～49%            (あまり達成できなかった)            [1] 0～24%            (ほとんど達成できていない)         </div> </div>	項目1 (授業)	目標
		①言葉の技能に焦点を当てた授業の充実を目指す。また、授業を通じて生徒の探究的な姿勢を育成する。
		②英語やフランス語などの外国語を積極的に使ってコミュニケーションをはかるスキルとマインドセットを養う。
		③外国語学習のあらゆる要素が最終的に言葉の持つ機能の習得に繋がるということを常に生徒と共に確認する。
		達成方法
		①ペアワークやグループワークなど、外国語での多様な言語活動を授業に取り入れる。
	項目2 (検定、進路)	目標
		①所属学年問わず、目標の進路にふさわしい外国語の技能向上を推進する。
		②進路実現に向け、生徒の英検・TEAP・IELTS・仏検・DELTA等の4技能スコアのバランスよい向上を図る。
		達成方法
		①ICTを活用する。教科書本文の解説、英文法や英語構文の分析・解説をビジュアル的にわかりやすく行う。
		②ELST、Weblio Study、スタディサプリEnglishなどのツールを活用し、自宅学習における日常的なトレーニングを徹底するとともに、検定試験対策としてライティングやスピーキング練習の積極的な活用を図る。
	項目3 (教科としての他の取組)	目標
		①カリキュラム内容を精査・整理し、6カ年を通じた指導内容や指導方法について必要に応じて改善を行う。
		②教科内の活動や授業方法について、常に改善・改革の視点を持ち点検を続ける。役割分担に基づき業務を遂行する。
		③第二外国語としてのフランス語を含め、複言語教育の普及を促進する。
		達成方法
		①NES教員と日本人教員の協力を進め、コミュニケーションを密にする。
		②ADC・GLCα・GLCβのコース別に、6カ年のグランドデザインを精査・整理し、指導内容・指導方法、評価方法の統一を目指す。
		③互いの授業を参観し、意見交換する。他教科の教員と連携を深める。
		④海外提携校との連携を深める。留学帰国生徒や編入生徒を積極的に支援する。
		⑤フランス語に加え、他の外国語についても生徒に学習機会を提供し、その学習を支援する。



		項目1		項目2		項目3													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード/平均		3.94	3.29	3.94	3.35	3.88	3.06												
1		3	3	4	3	3	2												
2		4	4	4	4	4	4												
3		4	4	4	3	4	3												
4		4	3	4	4	4	3												
5		4	2	4	3	3	2												
6		4	3	4	3	4	3												
7		4	4	4	4	4	4												
8		4	3	4	3	4	2												
9		4	3	4	2	4	3												
10		4	3	4	3	4	3												
11		4	3	4	3	4	3												
12		4	3	4	4	4	3												
13		4	4	4	4	4	4												
14		4	3	4	3	4	3												
15		4	3	4	3	4	3												
16		4	4	3	4	4	4												
17		4	4	4	4	4	3												
18																			
19																			

<取組状況・次年度への課題など>  
 各項目ともに重要度は高く、教科内での共通認識があるといえる。  
 項目1に関しては、GLCクラスにおいては達成度が高いと思われる。単なる技術習得ではなく、外国語を学ぶことによって視野を拡大するという意識で生徒が学習に向かえるよう工夫を継続していく。特にアドバンストクラスの生徒の英語力向上のために、何が出来るかについて今年度は議論を重ねてきた。来年度は様々な取り組みを実践しつつ、教科内で随時振り返り・検証を行って、改善点があれば適宜共有・修正していく。  
 項目2に関しては、全体としてICT・デジタル教材の活用は積極的に行っているが、今年度より新たに導入したELST、Weblio Studyなどの活用度にはばらつきがでているのが現状である。来年度はより効果的な活用方法を模索していく。今年度より、GTECは中2・中3で4技能試験を実施することとなった。GTECは、中学生でも受けやすい4技能試験として貴重な存在であるため、より活用の幅を広げていきたい。高校生のTEAP同様に経年でデータを収集・分析して指導に活用できるよう工夫したい。  
 項目3に関しては、アドバンストクラスの英語力向上のための取り組みに伴って、アド・GLCα・GLCβのコース別に、内容を引き続き精査・整理する必要がある。それと並行して指導内容や指導方法の統一を目指していきたい。



技術家庭科 2024年度重点目標																			
<div>重要度</div> <div>           [4] 大変に重要            [3] やや重要            [2] あまり重要でない            [1] 重要でない         </div> <div>達成度</div> <div>           [4] 75～100%            (ほぼ達成した)            [3] 50～74%            (まあまあ達成した)            [2] 25～49%            (あまり達成できなかった)            [1] 0～24%            (ほとんど達成できていない)         </div>	項目1		目標	自分の生きる目標に向かって、自分の生活を進んでよりよいものにしていく力を付けられるようにする。															
			達成方法	各自の生活に応じた方法を探究できるように、基礎的・基本的な知識や実技をしっかり定着させる。															
				生徒自身の学びを言語化させ、自信の学びを振り返る時間を設け、自己調整学習につなげる。															
	項目2		目標	社会生活の中で、知識だけでなく生活力も兼ね備えた人物に育てる															
			達成方法	学習の中で、自ら生活環境を整えることの大切さを知り、心身ともに健康が維持できるよう多くの実践の場を持たせる。															
				学力は、知識のみでなく実践を伴ってこそ生かされることを、日々の生活の中で自ら気づかせ、授業以外の時間にも活用できる機会を設ける。															
	項目3		目標	「目標に向かって最後まで諦めず努力する姿勢」を培える場面を多様に配置する。															
			達成方法	実習・課題、検定等を通して、成功体験を重ね、最後まで諦めず努力し、やり遂げたときの達成感を感じさせ、自らの行動に自信と誇りを持つことができるようにする。															
		項目1		項目2		項目3													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード/平均		4.00	3.00	4.00	3.00	4.00	3.00												
1		4	3	4	3	4	3												
2		4	4	4	4	4	3												
3		4	2	4	2	4	3												
4																			
5																			
6																			
7																			
8																			
9																			

<取組状況・次年度への課題など>  
 項目1、2では、評価が分かれた結果ではあるが、学年により生徒状況や到達度が違うため多少の偏りが出ていると考えられる。  
 項目2の学習の中で、自ら生活環境を整えることの大切さを知り、心身ともに健康が維持できるよう多くの実践の場を持たせるところの達成度が昨年より上がり、コロナ前と同じ水準まで実習が出来るようになった所が要因と考える。  
 項目3の実習・課題、検定等を通して、成功体験を重ね、最後まで諦めず努力し、やり遂げたときの達成感を体感させ、自らの行動に自信と誇りを持つことができるようにするところも昨年度より上がり、生徒が達成感を感じられるような授業が出来ていると考えられる。  
 次年度は、さらに各項目の到達度が真ん中の3.0ではなく、4.0に向けて取り組んでいけるように意識的に取り組んでいきたい。

情報科 2024年度重点目標																	
<div>重要度</div> <div>           [4] 大変に重要            [3] やや重要            [2] あまり重要でない            [1] 重要でない         </div> <div>達成度</div> <div>           [4] 75～100%            (ほぼ達成した)            [3] 50～74%            (まあまあ達成した)            [2] 25～49%            (あまり達成できなかった)            [1] 0～24%            (ほとんど達成できていない)         </div>	項目1	目標	ICTを活用する授業の実践														
		達成方法	・既存のロイロノート・スクールやmanaba、Google Workspace（IDG Suite）などのクラウドシステムを活用した授業を実践する。														
			・情報活用委員会と連携し、システムトラブルやアプリケーションのアップデートに対応しつつ、授業を円滑にすすめられるよう校内のICT環境の整備に努める。														
	項目2	目標	生徒が積極的に参加する授業の実践														
		達成方法	・探究型学習を通じて、アプリケーションの基本操作の習得だけでなく、実践的に活用できるような授業を実践する。														
			・ICTの知識習得だけでなく、問題意識を持ち主体的に考えて行動できるようにする。														
	項目3	目標	社会の変化や最新のICT技術に対応する														
		達成方法	・最新のICT技術の動向を常に注視し、外部研修会や展示会等に積極的に参加し教員間での情報共有に努める。それらを授業に還元できるよう努める。														
			・生成系AI等、最新の技術をどう授業に取り入れるか、ルール作りなども視野に入れて検討する。														
		達成方法	・大学入学共通テストや各大学の入試動向に注目し、生徒に還元できるように努める。														
		項目1		項目2		項目3											
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度										
部署コード/平均		4.00	4.00	3.00	3.00	4.00	4.00										
1		4	4	3	3	4	4										
2																	
<取組状況・次年度への課題など> 項目1： ロイロノートやmanabaといった既存のツールに加えて、P検・プログラミング能力試験の授業導入、自動採点の試用等、様々な自動化のツールを活用した。次年度は、一部の検定試験の仕様変更することもあり、活用方法の見直しが必要であるため、授業の構成を含め再検討する。 項目2： 教訓帰納を取り入れることを重視した結果、年間としてはグループでの取り組みが少なくなり、個人で取り組む課題が多かったように感じた。グループ活動と個人の学習とのバランスをよく検討して、生徒の主体性の引き出し方を引き続き検証していきたい。 項目3： 大学入学共通テスト初年度にあたり、模試などの傾向分析を積極的に行った。共通テスト2年目についても、引き続き最新の入試動向に注目していきたい。最新のICT技術については、外部研修会に参加できる機会が少なかったため、次年度は積極的に参加したいと考えている。																	